

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		スポーツ総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	303教室
担 当 教 員		生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する。							
《成績評価の方法と基準》							
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
Reference Book (日本スポーツ協会)							
《授業外における学習方法》							
インターネットや新聞紙面等において、授業に関連する記事や情報を意識的に見るようにする。							
《履修に当たっての留意点》							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングサイクル／構造論／目標論／手段・方法論・計画論				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント①				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント②／トレーニングと休養のバランス				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する①				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 身体のしくみと動き／トレーニングの種類				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 呼吸循環器系の働きとエネルギー機構		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 体力トレーニングの原理原則		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 トレーニングの種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキルトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スキルトレーニング】 スポーツバイオメカニクス		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 行動としてのスポーツ スポーツにおける動機づけ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目についてまとめる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	演習
科 目 名		テーピング		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期 木 ・4限	教室名	実技実習室2
担 当 教 員		奥出 一 貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》							
テーピングはスポーツトレーナーや柔道整復師が応急処置、外傷予防、再発防止などスポーツ現場にて必要なスキルである。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験:70点 出席点:20点 平常点:10点							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
テキストや配布プリントをよく読んで理解する。 技術は回数をこなすことにより習得することができるので、授業外での練習を自主的に行うようにする。							
《履修に当たっての留意点》							
授業内での練習時間は限られているため、1回1回を集中して講義に挑み、授業外での自主的な練習を行ってほしい							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーピングの目的や効果について理解することができるようになる。 アンダーラップの目的を理解し行うことができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション テーピング総論(目的・効果・種類・特徴・各種技法) アンダーラップ				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節捻挫について理解することができるようになる。 各種技法を理解し、内反捻挫に対するテーピングを行うことができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫に対するテーピング (アンカー、スターアップ、ホースシュー、サーキュラー、フィギュアエイト、ヒールロック)				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節捻挫について理解することができるようになる。 各種技法を理解し、内反捻挫に対するテーピングを行うことができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫に対するテーピング (アンカー、スターアップ、ホースシュー、サーキュラー、フィギュアエイト、ヒールロック)				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	クローズ・バスケットウィーブ、オープン・バスケットウィーブについて使用用途を理解し、行うことができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫に対するテーピング (クローズ・バスケットウィーブ、オープン・バスケットウィーブ)				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	クローズ・バスケットウィーブ、オープン・バスケットウィーブについて使用用途を理解し、行うことができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫に対するテーピング (クローズ・バスケットウィーブ、オープン・バスケットウィーブ)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の底屈制限、屈曲制限のテーピングの技法を理解し、行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	足関節背屈制御、底屈制御のテーピング		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の各種技法について理解し、より速く、正確に行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	足関節テーピング復習、まとめ		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	アーチの構造を理解し、アーチサポートのテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	足部のテーピング (アーチサポートのテーピング)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	足趾(母趾)の伸展・屈曲制限のテーピングが行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	足趾のテーピング		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	シンスプリントについて理解し、シンスプリントに対するテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	下腿部のテーピング		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	下腿三頭筋の筋挫傷について理解し、下腿三頭筋挫傷に対するテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	下腿部のテーピング		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節内側・外側側副靱帯損傷について理解し、側副損傷に対するテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節のテーピング (側副靱帯損傷に対するテーピング)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節前十字靱帯損傷について理解し、前十字靱帯損傷に対するテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節のテーピング (前十字靱帯損傷に対するテーピング)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の復習を行い、より正確に早くテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節のテーピング (側副靱帯損傷、前十字靱帯損傷の復習)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期学習内容の復習を行い、各種技法のテーピングをより速く、正確に巻くことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	前期学習内容の復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		トレーニング I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	303教室 運生室
担 当 教 員		生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
トレーニング指導者として必要な知識を学び理解する。							
《成績評価の方法と基準》							
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book(日本スポーツ協会) JATIテキスト(実技編) 配布資料							
《授業外における学習方法》							
テキストを精読する。 定期的に提示する課題に対してレポート作成、授業時に発表してもらいます。							
《履修に当たっての留意点》							
授業の方法			内 容		使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニング(体力)について理解し説明出来るようになる		健康運動実践指導者養成テキスト JATIテキスト(実技編)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	トレーニングとは 体力とは				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自体重を利用したレジスタンストレーニングについて理解し説明出来るようになる		健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング 自体重①				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	自体重を利用したレジスタンストレーニングについて理解し説明出来るようになる		健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング 自体重②				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	アイソメトリックトレーニングについて理解し、説明、指導が出来るようになる。		健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング アイソメトリック①				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	アイソメトリックトレーニングについて理解し説明出来るようになる		健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング アイソメトリック②				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	セラバンド・チューブを使ったトレーニングについて理解し説明できるようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング セラバンド・セラチューブ①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	バランスボール・バランスディスクを使ったトレーニングについて理解し説明出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング バランスボール・ディスク②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	セラバンド・チューブ、バランスボール・バランスディスクを使ったトレーニングを説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング セラバンド・チューブ／バランスボール・ディスク②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	マシントレーニングについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング マシン①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	フリーウエイトについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング フリーウエイト①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	フリーウエイトについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング フリーウエイト②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	フリーウエイトについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング フリーウエイト③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	パワートレーニングについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング パワー①		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	パワートレーニングについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	レジスタンストレーニング パワー②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各トレーニングについて理解し説明することが出来るようになる	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	総復習
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		解剖学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期 木・3限	教室名	303教室
担 当 教 員		新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、 元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》							
概ね講義形式で進める。ヒトの身体の構造としての解剖学に関する知識だけでなく、身体の働き、医学における解剖学の位置ならびに医学や医療の歴史における解剖学の役割やその概念の変遷についても理解する。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験： 100 %							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)							
《授業外における学習方法》							
基礎医学の中でも最も基礎的な分野ですが、単に器官の名前を覚えるだけでなく、それぞれの器官の役割や、疾病を予防し、健康を維持するために復習を忘れない。							
《履修に当たっての留意点》							
ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。最も重要な専門科目として広い知識を身につけることが重要であるが、それとともに、身体の各器官の役割と、それらの相互関係、ならびに健康や疾病における身体の解剖学的な意味についても理解できる資質を養うこと。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	人体の構造と組織の概要について理解する			教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	解剖学総論					
第2回	授業を通じての到達目標	身体の機能を支える血液循環のしくみを理解する			教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系総論					
第3回	授業を通じての到達目標	心臓の構造と各部位の特徴を、その機能から理解する			教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系各論 心臓					
第4回	授業を通じての到達目標	小(肺)循環ならびに大(体)循環のうち動脈のあらましを学ぶ			教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系各論 心脈管系①					
第5回	授業を通じての到達目標	大(体)循環のうち静動脈のあらましを学ぶ			教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系各論 心脈管系②					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	出生前後の循環系の差異、およびリンパ系の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	胎児循環・リンパ管系		
第7回	授業を通じての到達目標	消化器の構造を理解し、食物が通過する順位を告げれる	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器①		
第8回	授業を通じての到達目標	消化器のうち、小腸と大腸の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器②		
第9回	授業を通じての到達目標	消化器のうち、肝臓・胆嚢・脾臓の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器③		
第10回	授業を通じての到達目標	消化器のうち、口腔の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器④		
第11回	授業を通じての到達目標	呼吸器の概要とその機能を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 呼吸器①		
第12回	授業を通じての到達目標	呼吸器の各器官の構造と各々の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 呼吸器②		
第13回	授業を通じての到達目標	泌尿器の概要とその機能を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 泌尿器①		
第14回	授業を通じての到達目標	泌尿器の各器官の構造と各々の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 泌尿器②		
第15回	授業を通じての到達目標	前期で学んだ内容について理解を確実にする	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	まとめ 試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義	
科 目 名	外国語		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30	(2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 火・1限	教室名	303	
担 当 教 員	トレバー・ジョーンズ	実務経験と その関連資格	指導歴12年、第1種英語教員免許状				
《授業科目における学習内容》							
施術所にて想定される患者とのやりとりに必要な語彙や表現を学び、それらを用いて実際に英語を使ってやりとりができるようになる							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験(70%)＋出席(20%)＋提出物等(10%)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復師のための外国人対応ハンドブック(九段日本文化研究所・日本語学院)							
《授業外における学習方法》							
単語の意味調べ、課題							
《履修に当たっての留意点》							
配布されたプリント類はファイリングし、学期ごとに自己評価シートに必要事項を記入の上提出のこと							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	英語の必要性及び異文化理解のために必要な態度について理解できる		プリント		
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、異文化接触における自身の考え方や態度について考える				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	英語の発音記号をもとに発音ができる		プリント		
		各コマにおける授業予定	英語の母音、子音について 発音記号について				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	受付・会計の場面での患者とのやりとりで必要となる語彙、表現を正しく発音でき、使えるようになる		テキスト プリント	新出単語を調べる	
		各コマにおける授業予定	受付・会計に必要な語彙・表現を覚える 挨拶、初診再診の確認、初診の場合、保険証の提出				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	受付・会計の場面での患者とのやりとりで必要となる語彙、表現を正しく発音でき、使えるようになる		テキスト プリント		
		各コマにおける授業予定	診察室への案内、その他の表現会計まで待機の案内、保険証・診察券の返却、会計、お見送り、その他の表現				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	診察・問診の場面での患者とのやりとりで必要となる語彙、表現を正しく発音でき、使えるようになる		テキスト プリント	新出単語を調べる	
		各コマにおける授業予定	診察・問診に関する語彙と表現 診察前の会話、診察の開始、部位の特定、時期の特定、				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	診察・問診の場面での患者とのやりとりで必要となる語彙、表現を正しく発音でき、使えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	原因の特定、症状について、その他の表現		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	視診・触診の場面での患者とのやりとりで必要となる語彙、表現が分かり、正しい発音ができ、使えるようになる	テキスト プリント	新出単語を調べる
		各コマにおける授業予定	視診と触診に関する語彙と表現 視診の開始、視診中の会話、触診の開始、姿勢の指示		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	視診・触診の場面での患者とのやりとりで必要となる語彙、表現が分かり、正しい発音ができ、使えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	姿勢の指示、触診中の会話		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまで学習した表現をを使って患者とのやりとりが適切に行えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	受付、会計、問診、視診、触診のまとめ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	超音波機器による診察	テキスト プリント	新出単語を調べる
		各コマにおける授業予定	超音波機器による診察に関する語彙、診察中の会話		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者に診断結果を伝える際に必要となる語彙、表現が分かり、正しい発音ができ、使えるようになる	テキスト プリント	新出単語を調べる
		各コマにおける授業予定	診断結果を伝えるときに必要な語彙と表現 診断の確定、施術室への案内		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	施術を行う場面において患者とのやりとりで必要となる語彙、表現が分かり、正しい発音ができ、使えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	施術の開始、背術の方法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	施術を行う場面において患者とのやりとりで必要となる語彙、表現が分かり、正しい発音ができ、使えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	施術中の会話、注意事項、再審予約		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまで学習した表現をを使って受付から会計までの一連の患者とのやりとりが適切に行えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	超音波機器による診察、診断結果を伝える、施術のまとめ 会話文作成		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまで学習した表現をを使って受付から会計までの一連の患者とのやりとりが適切に行えるようになる	テキスト プリント	
		各コマにおける授業予定	会話練習: ロールプレイ、発表		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名		救急処置法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期 金・3限	教室名	303教室
担 当 教 員		奥出 一 貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師ならびにスポーツトレーナーにおいて必要な救急処置を現場で実践できるように理解を深めていく							
《成績評価の方法と基準》							
1. 定期試験:70% 2. レポート: 20% 3. グループワーク中の態度・発表: 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
日本体育協会 共通科目テキストⅠ 日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習 日本赤十字社 赤十字救急法講習 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
配布資料の読み込みと救急法に関心を持ち赤十字などがネット上で公開している救急法の方法について予習、復習をする。							
《履修に当たっての留意点》							
在学中の臨床実習、スポーツ現場実習において知識、技術共に最低限身に付けておかないといけない内容です。 実習に参加するためにも、また、夏休み期間中に基礎講習、救急法講座が開催されるため、しっかりと内容の理解に努めてほしい。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の意味、トレーナーの役割、応急処置の基本的留意点等について理解できるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	トレーナーの活動について調べる。 トレーナーバックの中身について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急処置の基本的知識				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	緊急対応計画や評価について理解できるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	スポーツ現場における救急処置について自身の経験を思い出す。 また、実際のスポーツ現場での救急処置について調べる。	
		各コマにおける授業予定	スポーツ現場における救急処置				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の必要性や注意点を理解し気道確保、胸骨圧迫を実践することができるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	前回までの復習。 心肺蘇生法について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置1				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	AEDの使い方や注意点を理解し実践することができるようになる。 人口呼吸の注意点や方法を理解し実践することができるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	AEDについて機器や使用方法について調べる。 前回内容の復習。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置2				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の一連の流れを行うことにより、実際に現場で起こった際の対応力を身に付けることができるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	心肺蘇生法について復習し、一連の流れでできるように練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置3				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	心疾患、脳血管障害について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	アナフィラシキー、食中毒、薬物中毒について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	低血糖、中毒、食中毒、薬物中毒、アナフィラシキーなどの症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	1つの競技を選択し、その競技中に救急処置が必要になった場合のシュミレーションをしてみる。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置2		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	外傷と障害の違い、炎症について理解することができる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	上記8回分の内容の復習。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置1		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	RICE処置やアイシングについて理解することができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾に触れ感触を確認しておく。 赤十字がネットでアップしている三角巾の動画をチェックしておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置2		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	頭頸部・脊椎外傷時の搬送方法や体位変換について理解することができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾のたたみ方の復習。 三角巾の本結びが完璧にできるように練習しておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置3		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	救急体制の重要性と計画について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	たたみ三角巾を正確かつ迅速にできるよう練習する。 頭部の手当を練習しておく。
		各コマにおける授業予定	現場における救急体制		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いたたたみ方、きずの手当、提肘ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	鎖骨骨折や足関節捻挫について症状などを調べる。 前回までの手当についての練習を欠かさずに行う。
		各コマにおける授業予定	きずの手当		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた鎖骨骨折や足関節捻挫の手当ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	血液に関する解剖、生理について教科書を予習し、理解しておく。 止血帯止血法で用いるターニケットについて調べておく。
		各コマにおける授業予定	骨折、捻挫の手当		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上記14回の内容について復習を行い、テストにてアウトプットする事により、学習内容の到達度の確認と知識の定着を目指す。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法講習 配布プリント	上記14回の内容の再確認、復習をしっかりとしておく。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	まとめ・期末試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名	健康エクササイズ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	303教室 運生室
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
健康運動実践指導者として、運動指導現場に必要な知識と技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book(日本スポーツ協会) JATI養成者テキスト(実技編) 配布資料						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読し、テキストにあるトレーニング例を予習復習として実施する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。	
		各コマにおける授業予定	第1章 健康づくり施策概論①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。	
		各コマにおける授業予定	第1章 健康づくり施策概論②			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	第2章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。	
		各コマにおける授業予定	第2章 運動生理学①			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	第2章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。	
		各コマにおける授業予定	第2章 運動生理学②			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	第2章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。	
		各コマにおける授業予定	第2章 運動生理学③			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	第3章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第3章 機能解剖とバイオメカニクス①		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	第3章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第3章 機能解剖とバイオメカニクス②		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	第4章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第4章 栄養摂取と運動①		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	第4章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第4章 栄養摂取と運動②		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	第5章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第5章 運動指導の心理学的基礎①		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	第5章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第5章 運動指導の心理学的基礎②		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	第6章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第6章 体力測定と評価①		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	第6章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第6章 体力測定と評価②		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	第7章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。
		各コマにおける授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第7章を理解し認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	既定時間内にウォーキングのポイントを説明しながら指導を行なうことができるように練習をする。
		各コマにおける授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム②		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名	健康エクササイズ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	303教室 運生室
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
健康運動実践指導者として、運動指導現場に必要な知識と技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book(日本スポーツ協会) JATI養成者テキスト(実技編) 配布資料						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読し、テキストにあるトレーニング例を予習復習として実施する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	第7章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。	
		各コマにおける授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム③			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	第7章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。	
		各コマにおける授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム④			
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。	
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動①			
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。	
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動②			
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。	
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動③ 水泳・水中運動→※6/27水泳実習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動④		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑤		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑥		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑦		
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑧ ※課題レジスタンストレーニング①		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑨ ※課題レジスタンストレーニング②		
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	第9章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第9章 運動障害と予防・救急処置①		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	第9章を理解して認定試験に備えることが出来る	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	第9章 運動障害と予防・救急処置②		
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定試験に向けて理解を深め確実に合格を目指す	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	総まとめ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	認定試験に向けて理解を深め確実に合格を目指す	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	・テキストを精読する。 教材付属DVDを熟覧する。
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演 習
科 目 名		健康管理学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期 木・1限目	教室名	303教室
担 当 教 員		難波 浩子	実務経験と その関連資格	中学高校保健体育教員資格			
《授業科目における学習内容》							
リファレンスブックを用いて課題に対してグループ考察やディスカッションをなどを取り入れ講義と演習形式で行なう。 科学的・論理的思考のもと各年代層に応じた健康指導の仕方を学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
・定期試験 70％ ・出席 20％ ・平常点 10％							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
日本スポーツ協会 リファレンスブック							
《授業外における学習方法》							
健康づくりや疾病予防の基礎的な知識を理解し、健康と健康づくりの概念と歴史、わが国の疾病状況や高齢化の現状をふまえ、それを推進する保健医療・介護の制度について理解するために独自で社会情勢など情報収集をする。							
《履修に当たっての留意点》							
スポーツ観戦など積極的に行い 各スポーツの面白さを学ぶとともに バックで支えている立場になることもわきまえ、いろいろな角度からスポーツを見る目を養う。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツの歴史をふまえたうえで 文化としてのスポーツを説明できる。		日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業で やった内容の復習を行う。	
		各コマにおける授業予定	スポーツの歴史と概念 文化としてのスポーツ				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会におけるスポーツの役割について説明することが出来る。		日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業で やった内容の復習を行う。	
		各コマにおける授業予定	社会の中のスポーツ				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツプロモーションについて理解することが出来る。		日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業で やった内容の復習を行う。	
		各コマにおける授業予定	我が国のスポーツプロモーション				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ活動における安全管理について理解することが出来る。		日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業で やった内容の復習を行う。	
		各コマにおける授業予定	スポーツと健康 スポーツ活動と安全管理 活動中のけがや病気				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ指導者(コーチ)に求められている事を説明することができる。		日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業で やった内容の復習を行う。	
		各コマにおける授業予定	スポーツ指導者(コーチ)とは 指導者の倫理、心構え、視点				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ指導計画について理解することが出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツ指導計画の立て方		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツクラブの運営について理解することが出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	統合型地域スポーツクラブの育成と運営		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ組織のマネージメントについて理解することが出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツ組織のマネージメントと事業のマーケティング		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ組織の事業マーケティングについて理解することが出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツ組織のマネージメントと事業のマーケティング スポーツ事業のプロモーション		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	発育発達期に行うスポーツの注意点を理解することができる。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	トップアスリートを育てるために、指導者が持つべき視点について理解することが出来る	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	トップアスリートを育てるために 指導者が持つべき視点		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	トップアスリートの育成・強化の方法や評価について理解することが出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	競技量向上のためのチームマネージメントについて理解する事が出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	競技力向上のためのチームマネージメント		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	競技力向上のための方法と活用について理解することが出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	競技力向上のための方法とその活用		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	今までおこなってきた内容について説明する事が出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		社会保障制度		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
社会保障・社会保険制度・医療保険制度等の仕組み 柔道整復師業務における医療費 DVDやパワーポイントなど使用して視覚情報も取り入れる。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会 (医歯薬出版株式会社)							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って、本読みや事例を元に学習							
《履修に当たっての留意点》							
学生にはなじみのない制度のため、ゆっくりに授業を進める。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	DVD(厚生省)などで事前知識確認			社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	もう一度復習	
	各コマにおける授業予定	社会保障とは 社会保障の3つの機能・あるべき社会と今後の社会保障					
第2回	授業を通じての到達目標	社会保障の仕組みがわかる。			社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み	
	各コマにおける授業予定	社会保障制度とは 公的年金の意義・公的年金制度の仕組み					
第3回	授業を通じての到達目標	年金等の仕組みがわかる。			社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み	
	各コマにおける授業予定	社会保障制度とは 介護保険の意義と仕組み 社会福祉・公的扶助・公衆衛生の意義と仕組み					
第4回	授業を通じての到達目標	医療保険の制度がわかる。			社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み	
	各コマにおける授業予定	医療保険制度とは 医療保険の目的と意義・保険診療の概要					
第5回	授業を通じての到達目標	医療現場や保険の現状がわかる			社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み プリント	
	各コマにおける授業予定	医療保険制度とは 医療保険財政の現状と課題・診療報酬制度					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	医療費の仕組みや柔道整復の療養費がわかる。	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み プリント
	各コマにおける授業予定	医療費制度の概要 医療費とは・柔道整復療養費		
第7回	授業を通じての到達目標	今後の医療費の概要がわかる。	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み プリント
	各コマにおける授業予定	医療費制度の概要 柔道整復療養費の推移・医療費の算定		
第8回	授業を通じての到達目標	総合的に社会保障全般を理解する。	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み プリント
	各コマにおける授業予定	療養費請求のケーススタディ・まとめ		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 金・1,2限	教室名	303
担 当 教 員	池上直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改正版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の歴史について理解する		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	柔道整復師術、柔道整復師の沿革1			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の業の成り立ちについて理解を深める		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	柔道整復術、柔道整復師の沿革2			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体にどのような外力が加わり組織が損傷するのか理解する		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	人体に加わる力、損傷時に加わる力の理解			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの評価について学ぶ		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	痛みの基礎について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折にはどのような分類があるか。骨折の種類について。		柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨の概説、骨折の分類、種類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折線の入り方、骨折の部位にどのような特徴があるかを学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨折の分類(骨折線の方法による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、力の働き方による分類、骨折部の部位による分類)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の一般症状と固有症状について理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナー
		各コマにおける授業予定	骨折の各症状の理解。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(併発症、続発症)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(後遺症)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の骨折と成人骨折の特徴の理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	小児骨折		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の骨折についての理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	高齢者の骨折、骨折の癒合日数。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折はどのようにして治癒していくのか、治癒過程の現象を組織学的に理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨折の治癒過程、骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節についてその構成組織について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	関節の構造と機能、関節を構成する組織。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節損傷とはどのようなものか、どのような組織を損傷するのか。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	関節損傷の概説、関節損傷の分類、損傷される組織、関節構成組織損傷。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	靱帯の治癒機序についてその過程や予後について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(損傷の程度による分類、靱帯損傷の治癒過程、経過と予後)		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学総論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	前期 金・4限	教室名	303教室
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師の業務の基礎である「診察・治療・予防」を臨床現場を想定しながら理論的に学び今後の学習にどのように応用活用できるか考える。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復師学理論編 改定版7版 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み・医療用語学習							
《履修に当たっての留意点》							
柔道整復総論は専科科目であり 国家試験や柔道整復師業務において重要科目である							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	診察とは何か、診察の進め方を理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	診察 A治療時の注意点 B診察の手順の概説 C診察の時期による分類				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	治療計画、施術録について理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	診察 D治療計画の作成 E施術録の扱いと記載				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	治療法の三段階、整復とは何かを理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	治療法(整復法) A徒手整復時の配慮 B骨折の整復法				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の整復法、脱臼の整復法を理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	治療法(整復法) C脱臼の整復法 D徒手整復の確認と配慮 E軟部組織損傷の初回処置				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	固定とは何か、固定の基礎を理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	治療法(固定法) A固定施行時の配慮 B固定後の配慮				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	後療法の目的、手技療法について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	治療法(後療) A用量 B患者の準備 C手技療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動療法について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	①運動の基本型		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動療法について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	②運動療法の種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動療法について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	③実際		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者との接し方を再復習し環境の把握を理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	治療法(指導管理) A患者とその環境の把握		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者環境に応じた管理を理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 配布プリント	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	治療法(指導管理) B患者の環境に対する指導管理 C自己管理に対する指導		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	予防の手順理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外傷予防(第一予防) A運動機能向上と教育活動①②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	予防について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外傷予防(第一予防) A運動機能向上と教育活動③④		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	予防内容を理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外傷予防(第二予防) 初期発見・早期知慮 (第三予防)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	復習を行い疑問点などを解消する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業の総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復師の職業倫理		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師の職業倫理 パワーポイントなど使用しての視覚情報も取り入れる。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会 (医歯薬出版株式会社)							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って、本読みや事例を元に学習							
《履修に当たっての留意点》							
学生にはなじみのない倫理観のため、ゆっくりを授業を進める。							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	職業の大まかな把握できる。			社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会		本読み復習
	各コマに おける 授業予定	医療従事者の職業倫理 職業倫理とは					
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師の倫理がわかる。			社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会		本読み復習
	各コマに おける 授業予定	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 患者への説明・守秘義務					
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	社会的責任や対応の仕方がわかる。			社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会		本読み復習
	各コマに おける 授業予定	柔道整復師の社会的責任と対応 (事例)患者への対応Ⅰ～Ⅳ					
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	事例に基づきディスカッションして事例研究			社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会		本読み復習
	各コマに おける 授業予定	グループ・ディスカッション事例					
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	個人情報について把握できる。			社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会		本読み復習
	各コマに おける 授業予定	医療における情報と責任 個人情報保護					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	SNS問題が把握できる。	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み復習
	各コマにおける授業予定	医療における情報と責任 SNS等での業務に関する情報発信での注意点		
第7回	授業を通じての到達目標	倫理綱領がわかる。	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み復習
	各コマにおける授業予定	職業倫理資料の確認・把握		
第8回	授業を通じての到達目標	職業把握や職業倫理が説明できる。	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み復習
	各コマにおける授業予定	医療従事者としての職業倫理・まとめ		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生物学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 火・2限	教室名	303
担 当 教 員	合原 勇馬	実務経験とその関連資格	中学校教諭一種免許状(理科), 高等学校教諭一種免許状(理科)			
《授業科目における学習内容》						
遺伝学、解解剖、生理学を中心に細胞と組織の特徴と機能を学習する						
《成績評価の方法と基準》						
毎授業の始めに先週の授業で学習したことを理解できているのかを確認するために小テストを行う。小テストでは重要語句と論述問題をだすことで知識の定着と生物学的思考力を見極める。1回5点満点で合計14回行う(合計70点満点)。小テストの合計点を25点満点に換算し期末テスト(60点満点)と平常点(15点)の合計で成績を評価する。期末テストの範囲は第1～15回の授業範囲とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
自作プリント						
《授業外における学習方法》						
ノートと配布レジメを用いて授業の復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
スライドを使い授業を進めていくが、重要な語句・内容であっても必要最低限の箇所しか文字色を変えていないため、文字色が違う箇所だけを板書しても情報不足なため復習の際に断片的な内容しか理解できないと予想される。そのため、各自で重要と思う部分をノートにまとめることが望ましい(取捨選択の能力充進にもつながる)。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	解剖学と生理学の位置づけを理解する			配布プリント	ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	授業の進め方についての説明と解剖学と生理学とは何かについて講義を行う				
第2回	授業を通じての到達目標	解剖学用語を覚えて使いこなせるようになる			配布プリント	ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	解剖学用語の講義を行う				
第3回	授業を通じての到達目標	生物の構成単位は細胞であることと、細胞の構造について理解する			配布プリント	ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	細胞とは何か理解し、細胞の構造と各細胞小器官の働きについての講義を行う				
第4回	授業を通じての到達目標	親から子に伝わる「遺伝」について理解する			配布プリント	ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	遺伝について学習し、遺伝情報の伝達物質であるDNAの構造について講義を行う				
第5回	授業を通じての到達目標	生命にとって必須であるタンパク質は体内でどのように合成されているのか理解する			配布プリント	ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	遺伝子からタンパク質が合成される過程のうち転写について講義を行う				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	生命にとって必須であるタンパク質は体内でどのように合成されているのか理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	遺伝子からタンパク質が合成される過程のうち翻訳について講義を行う			
第7回	授業を通じての到達目標	生物が生きていくうえで必須であるタンパク質の役割を理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	タンパク質の種類とそれぞれの機能について講義を行う			
第8回	授業を通じての到達目標	ヒトの発生は細胞分裂によって起きていることを理解する、また組織と器官について理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	個体形成には両親からDNAが必要であること、細胞分裂と発生の関わりについて理解する、また組織と器官の種類について講義を行う			
第9回	授業を通じての到達目標	組織の分類と特性を理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	上皮組織と支持組織の特徴についての講義を行う			
第10回	授業を通じての到達目標	組織の分類と特性を理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	筋肉組織と神経組織の特徴についての講義を行う			
第11回	授業を通じての到達目標	人体がどのように恒常性を維持しているのか、また体内で分子がどのように結合しているのかを理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	生物は原子によってできていること、ヒトの恒常性について、化学結合と分子、イオンについての講義を行う			
第12回	授業を通じての到達目標	人体と有機化合物の関係について理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	有機化合物の一種である糖質、脂質、タンパク質と人体の関係についての講義を行う			
第13回	授業を通じての到達目標	細胞に必要な物質はどのように細胞膜を透過しているのかを理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	拡散と浸透、ろ過、膜を隔てた物質の輸送(受動輸送と能動輸送)についての講義を行う			
第14回	授業を通じての到達目標	膜を隔てた物質の輸送について理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて講義を行う			
第15回	授業を通じての到達目標	これまでの授業で学んだことを理解する	配布プリント		ノートを見て復習し、次回の小テストに向けて準備をする
	各コマにおける授業予定	テスト対策			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	包帯固定法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 月(1)	教室名	実技実習室2
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
まず座学にて包帯の目的、名称、注意点等を覚える。次に実技にて基本包帯法から冠名包帯法までを修得する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
南江堂 包帯固定学 改訂第2版 医学書院 図解包帯法 第4版						
《授業外における学習方法》						
出来るだけ毎日包帯に触れる機会をつくり、包帯法を練習する絶対数を増やす。						
《履修に当たっての留意点》						
包帯法は柔道整復師の業務のなかで、固定の基本となる。包帯法の基礎をしっかり身に付け、分からないこと、出来ないこと、をそのまま放置するのではなく、必ず解決してから次のステップに進む。一緒にレベルアップを目指して頑張りましょう。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	実技に入る前に包帯の目的、固定材料について理解することができるようになる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	包帯固定学の教科書第1、2章を読んで予習しておく。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 固定、固定材料の種類			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	包帯施行時の注意点について理解し、包帯の扱いに慣れることができるようになる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	前回内容の復習と包帯に触れ感触を確認しておく。 ご家族の体をお借り、思うように巻いてみる。
		各コマにおける授業予定	巻軸帯の巻き方と注意事項 巻軸帯の巻き戻し			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	基本包帯法を巻くことができるようになる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	巻き戻しの練習をしておく。 基本包帯法(教科書第5章)の名称を覚えておく。
		各コマにおける授業予定	基本包帯法			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	基本包帯法、手指部の技法の理解と各種被覆包帯を巻くことができるようになる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 包帯操作に慣れる。
		各コマにおける授業予定	基本包帯法、手指部の包帯 (基本包帯法、隻指帯)			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	手関節・技法の理解と被覆包帯を巻くことができるようになる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 手指部の被覆包帯の練習をして巻き方に慣れるようにする。
		各コマにおける授業予定	手指部の包帯 (指ほうか帯、不全指帯、全指帯、指頭ほうか帯、総指ほうか)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	前腕部と肘関節の技法の理解と被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 教科書にて亀甲帯の予習をしておく。 前腕部の折転帯を練習し折転帯に慣れておく。
		各コマにおける授業予定	手関節前腕部・肘関節の包帯 (前回内容の復習、螺旋帯、折転帯、離開亀甲帯、集合亀甲帯)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節麦穂帯の理解と各種被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 教科書にて肩関節の麦穂帯について予習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節の包帯 (上行麦穂帯、下行麦穂帯)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	上記内容の技法の再確認とより正確に早く包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 第7回目までの内容の復習と各種包帯法の練習。
		各コマにおける授業予定	上肢包帯法の確認		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	足趾部技法の理解と各種被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 前回までの内容の復習。
		各コマにおける授業予定	足趾部の包帯 (隻趾帯、趾ほうか帯、第1趾麦穂帯、総趾ほうか帯)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	足関節鍔帯、麦穂帯の理解と被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 前回までの内容の復習。
		各コマにおける授業予定	足関節の包帯 (鍔帯、上行麦穂帯、下行麦穂帯)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の技法の理解と被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 前回までの内容の復習。
		各コマにおける授業予定	足関節・下腿部の包帯 (前回内容の復習、麦穂帯、亀甲帯)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の技法の理解と各種被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 前回までの内容の復習。
		各コマにおける授業予定	下腿部の包帯		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の亀甲帯の理解と被覆包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	基本包帯法の自宅練習。 前回までの内容の復習。 特に肘関節の包帯の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	膝関節の包帯(離開亀甲帯、集合亀甲帯)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	前期包帯法の技法の理解を深め、練習することでより正確に早く包帯を巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	第13回までの各種包帯法の自宅練習。
		各コマにおける授業予定	前期包帯法の復習		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	前期行った包帯技法を素早く正確に巻くことができるようになる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	第13回までの各種包帯法の自宅練習。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	スポーツ総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	301
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book (日本スポーツ協会)						
《授業外における学習方法》						
インターネットや新聞紙面等において、授業に関連する記事や情報を意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
毎回の授業の予習復習をしっかりと行い各項目をしっかりと理解しておくこと。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングサイクル／構造論／目標論／手段・方法論・計画論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント②／トレーニングと休養のバランス			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 身体のしくみと動き／トレーニングの種類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 呼吸循環器系の働きとエネルギー機構		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 体力トレーニングの原理原則		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 トレーニングの種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキルトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スキルトレーニング】 スポーツバイオメカニクス		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 行動としてのスポーツ スポーツにおける動機づけ①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目についてまとめる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	演習
科 目 名		テーピング		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技実習室2
担 当 教 員		奥出 一 貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》							
テーピングはスポーツトレーナーや柔道整復師が応急処置、外傷予防、再発防止などスポーツ現場にて必要なスキルである。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験:70点 出席点:20点 平常点:10点							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
テキストや配布プリントをよく読んで理解する。 技術は回数をこなすことにより習得することができるので、授業外での練習を自主的に行うようにする。							
《履修に当たっての留意点》							
授業内での練習時間は限られているため、1回1回を集中して講義に挑み、授業外での自主的な練習を行ってほしい							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節内側側副靱帯損傷に対するテーピングができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	膝関節に対するテーピング①				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節外側側副靱帯損傷に対するテーピングができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	膝関節に対するテーピング②				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	前十字靱帯損傷に対するテーピングができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	膝関節に対するテーピング③				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	第1～3回の総復習を行い、固定のテーピングを迅速かつ丁寧に施行することができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	膝関節に対するテーピング④				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	競技復帰時に生じる不安定性に対するテーピングができるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	膝関節コンディショニングテープ				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	深栖プリントのに対するテーピングができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	シンスプリントに対するテーピング		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	各種技法を理解し肩鎖関節脱臼に対するテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼に対するテーピング		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	各種技法を理解し肩関節反復性脱臼に対するテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	機能を極力制限せずに安定性を発揮するテーピングができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節コンディショニングテープ		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	支持性を高め機能的動作が可能となるテーピングができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肘関節コンディショニングテープ		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	手関節の安定と把持機能を高めるためのテーピングができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	手関節コンディショニングテープ		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	各種技法を理解しキネシオテープを用いたテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	キネシオテーピング①		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	各種技法を理解しキネシオテープを用いたテーピングを行うことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	キネシオテーピング②		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	各部位のテーピングの注意点を復習し素早く丁寧にテーピングを施行できるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期学習内容の各種技法のテーピングを緊張感の中、より速く、正確に巻くことができるようになる。	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し練習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名		トレーニングⅡ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	運動生理学室
担 当 教 員		生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士 NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
健康増進などの目的やさまざまな対象者に対して、安全で効果的なプログラム作成と指導を楽しく指導出来るように、トレーニング指導者として必要な知識方法を学び理解する。							
《成績評価の方法と基準》							
試験評価 70% 出席評価 20% 平常評価 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
健康運動実践指導者養成テキスト(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団) Reference Book(日本スポーツ協会) 配布プリント NSCA監修エクササイズDVD							
《授業外における学習方法》							
主に実技であるため、授業にて学習した内容は配布資料やメモにてしっかり記録し、定期的に方法やフォームなどを確認すること。							
《履修に当たっての留意点》							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力について説明ができるようになる。		・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。	
		各コマにおける授業予定	体力とは				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	自体重を利用したエクササイズについて理解し、説明、指導が出来るようになる。		・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。	
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ (自体重エクササイズ)				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	筋の収縮様式について理解し、アイソメトリックエクササイズについて理解し、説明、指導が出来るようになる。		・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。	
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ (アイソメトリックエクササイズ)				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	チューブを利用したエクササイズについて理解し、説明、指導が出来るようになる。		・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。	
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ (チューブエクササイズ)				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	バランスボールやバランスディスクを利用したエクササイズについて理解し、説明、指導出来るようになる。		・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。	
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ (バランスボール、バランスディスク)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	フリーウエイトエクササイズについて理解し、説明、指導が出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ(フリーウエイト)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニングマシンを使用したエクササイズについて理解し、説明、指導が出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ(マシンエクササイズ)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	プライオメトリクスエクササイズについて理解し、説明、指導が出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	レジスタンスエクササイズ(プライオメトリクストレーニング)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	パワー能力の向上トレーニングについて理解し、プログラム作成・指導が出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	パワー向上トレーニングのプログラム作成と指導		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	スピード能力の向上トレーニングについて理解し、プログラム作成・指導することが出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	スピード向上トレーニングのプログラム作成と指導		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	ウォーミングアップとクーリングダウンについて理解し、プログラムを作成・指導することが出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	柔軟性向上とウォーミングアップ、クーリングダウンのプログラム作成と指導		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	サーキットトレーニングの特徴や注意点を理解し、プログラムを作成・指導することが出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	サーキットトレーニングのプログラム作成と指導		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の特徴を理解し、高齢者に対するトレーニングプログラムを作成することが出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対するトレーニングプログラム作成と指導		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	妊婦の特徴を理解し、妊婦に対するトレーニングプログラムを作成することが出来るようになる。	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	該当内容について、テキストや配布資料を精読し修得出来るよう準備しておく。
		各コマにおける授業予定	妊婦に対するトレーニングプログラム作成と指導		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	今までの内容について	・Reference Book (日本スポーツ協会) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	総復習
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義	
科 目 名		解剖学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2)	時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301	
担 当 教 員		平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員				
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療に携わるには、骨・関節の知識の習得は不可欠で、争の山本はいものこめる。適切な処置をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者様の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけではなく、靱帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。								
《成績評価の方法と基準》 期末試験で成績の全てを判定する。								
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 岸 清 石塚 寛 編 医歯薬出版株式会社								
《授業外における学習方法》 各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。								
《履修に当たっての留意点》 復習をしっかりしておく。								
授業の方法			内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる			上記教科書		
		各コマにおける授業予定	下肢帯の作用と運動					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる			上記教科書		
		各コマにおける授業予定	下肢帯の作用と運動					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる			上記教科書		
		各コマにおける授業予定	下肢帯の作用と運動					
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる			上記教科書		
		各コマにおける授業予定	大腿の筋作用と運動					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる			上記教科書		
		各コマにおける授業予定	大腿の筋作用と運動					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢骨の筋、作用と運動		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	大腿の筋作用と運動		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	大腿の筋作用と運動		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢骨の筋、作用と運動		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢骨の筋、作用と運動		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢骨の筋、作用と運動		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	足底の筋、作用と運動		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	足底の筋、作用と運動		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	全ての筋のまとめ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	全ての筋のまとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	2 (60) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	後期 金1・2限目	教室名	301教室
担 当 教 員		新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》							
医療を志す者にとっては基本的な学問である解剖学は、ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。とりわけ、柔道整復師にとっては、最も重要な専門科目として広い知識を身につけることが重要であるが、それとともに、身体の各器官の役割と、それらの相互関係、ならびに健康や疾病における身体の解剖学的な意味についても理解できる資質を養うことを、本科目では目標とする。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験： 100 %							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
『解剖学』 改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)							
《授業外における学習方法》							
講義を通じた知識の習得が平面的な記憶に陥る弊害を防ぐため、折に触れてグループ討論(ワークショップ)をも導入しながら、既存の知識体系にたいする批判的な検討を伴いつつ、医学や医療に関する主体的な理解を得るようにしたい。							
《履修に当たっての留意点》							
器官の名前を覚えるのは退屈ですが、器官の相互の働き、健康を維持する機能など、疾病予防や健康増進に対する理解をも深めること。科学の進歩に応じた新しい知見に関心を持てるよう、教科書以外の参考書も通読することを、お勧めする。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖のしくみと生殖器官の概要について理解する		『解剖学』 改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内臓系 生殖器①				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	男性生殖器の構造ならびに機能について理解する		『解剖学』 改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内臓系 生殖器②				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性生殖器の構造ならびに役割・生理的機能を理解する		『解剖学』 改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内臓系 生殖器③				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌器官の特徴、基本的な構造について理解する		『解剖学』 改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内分泌系①				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌を掌る各器官の特徴と構造について理解する		『解剖学』 改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内分泌系②				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	各器官からの内分泌をコントロールする器官と特徴を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内分泌系③		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢と末梢、自律神経と運動・感覚神経などの特徴を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	神経系総論①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の各支配領域、特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	神経系総論②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の各部位の機能、支配領域を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳幹、間脳、小脳の機能を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経②		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳幹、間脳、小脳の機能を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経③		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経の中枢機能を担う特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経④		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経の各部位から分岐する神経の特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経⑤		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	第I～IV脳神経について支配部位と特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脳神経①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第V～VIII神経について支配部位と特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脳神経②		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名	健康エクササイズⅡ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実習室Ⅱ
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士 NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
健康運動実践指導者として、運動指導時に必要な知識と技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験評価 70% 出席評価・平常評価 30%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・健康運動実践指導者養成テキスト、教材付属DVD ・新エアロビックダンス エクササイズの実技指導 ・配布資料						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読し、テキスト付属DVDや他ツールにて、エアロビック関連の情報を得ておく。						
《履修に当たっての留意点》						
運動の目的、効果をより理解するために自身でしっかり体験体感する						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスの基本について理解する。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する	
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンスとは			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビクスダンスプログラムを体験し体感する	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する	
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンス体験			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	エアとビックダンスの運動効果を理解する。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する	
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンスの効果			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスを実施する上での要点を理解する。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する	
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンスの実際			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスを指導する指導者としての役割を理解する。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する	
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンス実技①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスの課題プログラムを決め覚える。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンス実技②		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスの音の合わせ方を修得する。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンス実技③		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスの課題プログラムを実際に音に合わせて実施する。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンス実技④		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスの特性や注意点を言える(伝えられる)。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビックダンス⑤		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスを指導しながら次の動きを指示できる。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビクスダンス⑥		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビックダンスを指導しながら動きの注意点を指摘できる。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビクスダンス⑦		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビクスダンスを指導しながら動きを全体的に観察できる。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビクスダンス⑧		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビクスダンスを指導しながら対象者への効果的な声かけができる。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	・テキストを精読する ・教材DVDを熟覧する
		各コマにおける授業予定	エアロビクスダンス⑨		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	エアロビクスダンスを既定時間内に指導することができる。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	既定時間内に指導ができるよう、時間を見ながら反復的に実践する
		各コマにおける授業予定	エアロビクスダンス⑩		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	実際の資格実技試験の模擬試験として、規定時間内に適切な指導をすることができる。	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料 ・教材付属DVD	既定時間内に指導ができるよう、時間を見ながら反復的に実践する
		各コマにおける授業予定	期末試験(実技試験)		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔整応用実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301教室
担 当 教 員		木下 和樹	実務経験とその関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格 理学療法士			
《授業科目における学習内容》							
臨床実習を行うにあたって必要となる医療面接法、体表観察法、評価・測定の修得を目指す							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験80% 実技試験20%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
臨床実習ガイドライン 柔道整復師学理論編・実技編 解剖学							
《授業外における学習方法》							
身体部位の触診、身体計測、ROM、MMT、等の予習、復習を行う							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習においても必ず必要となる実技である。また国家試験や柔道整復師業務において重要科目である							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	臨床実習について理解する			柔道整復師学理論編改定版6版	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	講義ガイダンス・オリエンテーション					
第2回	授業を通じての到達目標	医療面接について理解する			柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	医療面接 言葉使い、問診、接遇、視診					
第3回	授業を通じての到達目標	主要な骨、筋を触知できる			柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	主要な骨と筋の触知					
第4回	授業を通じての到達目標	身体計測、バイタルサインができる			柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	血圧測定、四肢長、四肢周径					
第5回	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる			柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第7回	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第8回	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第9回	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	頸部・上肢		
第10回	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	下肢		
第11回	授業を通じての到達目標	反射検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	深部反射、表在反射		
第12回	授業を通じての到達目標	感覚検査・運動機能検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	表在・深部感覚、上肢・下肢・体幹の機能検査		
第13回	授業を通じての到達目標	実技総復習	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	これまでに行った実技を行う		
第14回	授業を通じての到達目標	実技を行う	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	実技試験		
第15回	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	授業総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復学の上肢の骨折脱臼軟部組織損傷について学ぶ							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版、配布プリント							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ							
《履修に当たっての留意点》							
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折に係する骨・筋や総論Ⅰでの骨折の分類等を見直し理解する		柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨部の損傷A機能と解剖 B鎖骨骨折				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨脱臼について理解する		柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	C鎖骨脱臼 胸鎖関節前方脱臼				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨脱臼について理解する		柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼、注意すべき疾患				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の解剖と機能を理解する		柔道整復学・理論編改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	A解剖と機能B肩甲骨の骨折の肩甲骨体部骨折上角下角骨折				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨骨折について理解する		柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	関節窩骨折、頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部の解剖と機能を理解する、近位部骨折について学ぶ	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	骨頭骨折、解剖頸骨折、外科頸骨折		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部骨折について学ぶ	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外科頸骨折		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部骨折を理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	大結節骨折、小結節骨折、近位骨端線離開		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の解剖と機能を理解する、肩関節脱臼について学ぶ	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼、肩関節後方脱臼		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼、反復性肩関節脱臼		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節の軟部組織損傷の解剖と機能について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	筋腱の損傷、スポーツ損傷、不安定性、その他の疾患		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕部の損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	A解剖と機能B上腕部遠位部の骨折 顆上骨折		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕部の損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外顆骨折、内側上顆骨折		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部近位部の骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	橈骨近位端部骨折、肘頭骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節の脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	前腕両骨脱臼、橈骨頭単独脱臼		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学・各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	301教室
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
四肢の損傷はスポーツ傷害に発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で損傷が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷がみられる。それらの損傷を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになることを目標とする。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につける。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂							
《授業外における学習方法》							
・予習について、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に臨むようにする。 ・復習について、講義でやった内容のノートを確認してから次の講義に臨むようにする。							
《履修に当たっての留意点》							
欠課により、休んだ回の内容が完全に無い形で進行するため、欠課がないように気をつける。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の機能解剖について理解する。		「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、	
		各コマにおける授業予定	上肢と下肢の役割の違いからくる構造上の違い、特徴など				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨盤部の損傷について理解する。		「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤骨骨折、注意すべき疾患				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨盤部の損傷について理解する。		「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤骨骨折、注意すべき疾患				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。		「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。		「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折、股関節脱臼		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	股関節脱臼		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨骨幹部骨折		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨骨幹部骨折		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の機能解剖について理解することができる	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の機能解剖について理解することができる	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨遠位端部骨折		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨遠位部の骨折について理解することができる	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨遠位部の骨折		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨近位端部の骨折について理解することができる	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	下腿骨近位端部の骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨近位端部の骨折について理解することができる	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	下腿骨近位端部の骨折		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	301教室
担 当 教 員	中西 徹	実務経験と その関連資格	就実大学 名誉教授			
《授業科目における学習内容》						
生理学の第10章の循環から第17章の発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化までを行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学改訂第4版(南江堂)						
《授業外における学習方法》						
生理学を学ぶことにより体の機能を理解するために予習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学はヒトの身体の正常機能を理解する、重要な科目です。この理解は2年次以降の一般臨床や病理学等の科目においても必要となります。1年間、頑張ってください。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	心筋の名称、機能、性質を理解する。心電図を理解する。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	循環① (A心臓、心電図、心臓の活動周期)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	各血管の構造と働きを、リンパ系を理解する。血圧の意味を理解する。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	循環② (B血管、Cリンパ系、D循環調節)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の構造と換気の仕組みを説明できる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸の生理① (A呼吸器系の構造 B換気)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液中の酸素と二酸化炭素の運搬様式、呼吸調節のしくみを説明できる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸の生理② (Cガス交換と運搬、D呼吸周期の調節)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎の構造と機能を理解し、尿の生成過程を理解する。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	尿の生成と排泄① (A腎臓の構造と機能 B尿の生成)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎機能の測定値を理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	尿の生成と排泄② (C腎血流量 D排尿)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓による体液量の調節のしくみを理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	尿の生成と排泄③ (E腎臓による体液の調節)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体に必要な栄養素を説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	栄養と代謝①(A生体に必要な栄養素)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	エネルギーの合成・貯蔵のしくみ、中間代謝を理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	栄養と代謝②(Bエネルギー代謝、C栄養素の代謝、D食物と栄養)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系の役割と構造、運動様式を理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	消化と吸収①(A消化器系の構成とはたらき)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔から大腸までの消化吸收機序を理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	消化と吸収②(B食物の消化と吸収)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖質・タンパク質・脂質の消化から吸収まで説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	消化と吸収③(C各栄養素の消化と吸収)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	熱産生・熱放散の機序を理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	体温とその調節①(A体温 B熱産生 C熱放散)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温調節の機序、発熱について理解する。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	体温とその調節②(D体温調節 E気候順化、F発熱とうつ熱)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞、組織の加齢現象について理解出来るようになる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化①(A細胞、組織の加齢現象)		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室
担 当 教 員	中西 徹	実務経験と その関連資格	就実大学 名誉教授			
《授業科目における学習内容》						
生理学の第10章の循環から第17章の発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化までを行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学改訂第4版(南江堂)						
《授業外における学習方法》						
生理学を学ぶことにより体の機能を理解するために予習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学はヒトの身体の正常機能を理解する、重要な科目です。この理解は2年次以降の一般臨床や病理学等の科目においても必要となります。1年間、頑張ってください。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体膜と細胞内小器官の変化について理解出来るようになる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化②(A細胞、組織の加齢現象)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	体内水分量の変化について理解出来るようになる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化③(A細胞、組織の加齢現象)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生理的特徴について理解出来るようになる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化④(B加齢による臓器機能の変化)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患について理解出来るようになる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化⑤(B高齢者に多い疾患・障害)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の歩行機能、平衡機能について理解出来るようになる。		生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化⑥(C運動と加齢)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の反応時間について理解出来るようになる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生理学的特徴・変化⑦(C運動と加齢)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキヤモンの発育曲線について説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化①(A成長に伴うからだや運動能力の発達)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児期から青年期の発育の特徴について説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化②(A成長に伴うからだや運動能力の発達)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動について説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化③(A成長に伴うからだや運動能力の発達)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	発育期の運動の影響について説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化④(A発育期の運動不足・過運動の影響)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の発達と習熟について説明できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化⑤(A発育期の運動不足・過運動の影響)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化について理解出来るようになる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化⑥(B競技者の生理学的特徴・変化)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニングによる神経機構、姿勢調節能力の変化について理解出来るようになる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化⑦(B競技者の生理学的特徴・変化)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	眼球運動と姿勢制御について理解できる。	生理学改訂第4版(南江堂)	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化⑧(B眼球運動と姿勢制御)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	恒常性維持のしくみ、加齢やトレーニングによる変化・適応を理解出来るようになる。	生理学改訂第4版(南江堂)	試験範囲を復習する
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名		体育		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	武道場
担 当 教 員		難波 浩子	実務経験と その関連資格	保健体育教員免許			
《授業科目における学習内容》 柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である嘉納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体 の健康維持、体力の向上を目標とする。							
《成績評価の方法と基準》 ・定期試験 70% ・出席 20% ・平常点 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》 参考図書 『イラスト柔道・イラスト柔道の形』 共に五月書房							
《授業外における学習方法》 柔道の動画などを利用して、動きやタイミングを学ぶ。							
《履修に当たっての留意点》 必ず体温確認をして体調やけが、筋肉痛など各自の体の管理をしっかりし、不調がある場合は必ず担当者に伝える。授業終了後は手指のアルコール消毒は必ずすること。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道について武道、スポーツと2つの考え方を理解する			予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 授業概要の説明、武道としての柔道、スポーツとしての柔道				
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の名称 着かたを理解する。			予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道の国際化、礼法、特性、柔道衣の扱い方、体ほぐし運動				
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	受身の重要性を理解し、挑戦してみる。			予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前)、姿勢、組み方				
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	受身の種類を理解し 体得する。体裁きについて理解する。			予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前・前廻り)体捌き(前・後ろ・前廻り・後ろ回り)				
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	左右の受け身を体得し 崩しについて理解する。			予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前・前廻り)崩し(八方)、進退動作				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	回転運動を体得し、摺り足、継ぎ足、歩み足を理解する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前・前廻り)進退動作(継ぎ足、歩み足)		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回り受け身を体得し 投げ技を理解する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 前廻り受け身、投げ技の基本動作		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	膝車を通して、対人受け身を体得する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、膝車、大腰		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	足技の基本を理解する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	本動作・対人的技能 前廻り受け身、体落とし、出足払い		
第10回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	大腰を通して 投げ技受身を体得する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、大腰 固め技の基本動作		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	後ろに投げられた時の受け身を体得する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、大内刈り、小内刈り・崩れ上四方固め		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	寝技にの基本動作 ルールを理解する。		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、支えつり込み足、払い腰 袈裟固め		
第13回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道の形をどうして 投げ技を学ぶ		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、送り足払い、内股・横四方固め 柔道の形		
第14回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道の形をどうして 投げ技を学ぶ		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、背負い投げ、跳ね腰 柔道の形		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	礼法 受身のテスト 技の名称をテストする		予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。 復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	総括 これまでの復習、理解度を深める		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		物理療法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	実技室2
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
物理的な方法を加えることで起こる生理的生化学的变化から原理・方法及び各種物理機器の取り扱いを学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験、レポートの提出状況及び内容にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学 理論編 第6版							
《授業外における学習方法》							
講義と演習方式で行なう。教科書での物理療法に関する知識を身につけ、実際の物理療法機器の扱いを演習形式で体験する。							
《履修に当たっての留意点》							
接骨院の業務内容で後療法としての物理療法の位置づけは大きいものとなります。 物理療法機器についての正しい知識と扱いをしっかりと学びましょう。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	物理療法とはなにか理解する。		柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 後療法の中の物理療法 分類 安全対策				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	電気療法とはなにか理解する。		柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	物理療法機器の確認 電気療法総論 低周波電気療法 中周波電気療法				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	温熱療法とはなにか理解する。		柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	伝導熱療法 輻射熱療法 変換熱療法				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	光線療法とはなにか理解する。		柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	低反応レベルレーザー療法				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	寒冷療法とはなにか理解する。		柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	伝導冷却法 対流冷却法 気化冷却法				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	牽引療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習
		各コマにおける授業予定	牽引療法		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	その他の物理療法について理解する。	柔道整復学 理論編 第6版 実習演習	本読み予習 講義復習
		各コマにおける授業予定	間欠的圧迫法		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	まとめとして物理療法を理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	包帯固定法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技実習室2
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
座学にて包帯の目的、名称注意点等を覚え、実技にて基本包帯法から冠名包帯法までを身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
南江堂 包帯固定学 改訂第2版 医学書院 図解包帯法 第4版						
《授業外における学習方法》						
出来るだけ毎日包帯に触れる機会をつくり、包帯法を練習する絶対数を増やす。						
《履修に当たっての留意点》						
包帯法は柔道整復師の業務のなかで、固定の基本となる。包帯法の基礎をしっかりと身に付け、分からないこと、出来ないこと、をそのまま放置するのではなく、必ず解決してから次のステップに進む。一緒にレベルアップを目指して頑張りましょう。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション、足部、足関節部の包帯を巻くことができる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	前期の復習
		各コマにおける授業予定	足部、足関節部の包帯			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部、膝関節部の包帯法(亀甲帯)を巻くことができる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	下腿部、膝関節部の包帯			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	大腿部、股関節の包帯法(上行麦穂帯)を巻くことができる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯 三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	大腿部、股関節の包帯			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面の包帯(複頭帯、単頭帯、ヒポクラテス帽子)について巻くことができる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面の包帯			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	胸背部8字帯、晒包帯(腰部の固定)について巻くことができる。		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	胸・背8字帯、晒包帯			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	三角巾で応急処置を行うことができる	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯、三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	三角巾(止血および固定)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法デゾー包帯の第1帯～第4帯を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	デゾー包帯法①		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法デゾー包帯の第1帯～第4帯を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	デゾー包帯法②		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ヴェルポー包帯(患肢右側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ヴェルポー包帯①		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ヴェルポー包帯(患肢左側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ヴェルポー包帯②		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ジュール包帯(患肢右側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ジュール包帯①		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ジュール包帯(患肢左側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ジュール包帯②		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	各冠名包帯法について名前と技法が一致し、前回の授業よりも精度を高めて巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	デゾー、ジュール、ヴェルポー包帯の復習		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	前期から後期にかけて実施した全ての包帯法の復習を行う。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯、三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	前期、後期包帯法の復習		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯、三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	まとめ・後期試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名		臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時間	後期 火曜	教室名	外部実習先
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習							
《成績評価の方法と基準》							
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン							
《授業外における学習方法》							
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標				公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン		
	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)					
第 2 回	授業を 通じての 到達目標				公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン		
	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)					
第 3 回	授業を 通じての 到達目標				公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン		
	各コマに おける 授業予定	身体診察法(四肢周径・MMT・ROM/徒手筋力検査法・反射検査等)					
第 4 回	授業を 通じての 到達目標				公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン		
	各コマに おける 授業予定	身体診察法(四肢周径・MMT・ROM/徒手筋力検査法・反射検査等)					
第 5 回	授業を 通じての 到達目標						
	各コマに おける 授業予定	身体診察法(四肢周径・MMT・ROM/徒手筋力検査法・反射検査等)					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	身体診察法(四肢周径・MMT・ROM/徒手筋力検査法・反射検査等)		
第 7 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 8 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 9 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 10 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 11 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 12 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 13 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 14 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		
第 15 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定	各実習施設に分かれて実習 大谷接骨院・みやわき鍼灸整骨院・ディサービスセンター蛍流荘 地域密着型通所介護サービスセンターベリル		